

65
2015
Autumn



在学生のフタシ★アクション！

「踊り」と「学び」の両方で
地域の復興に役立つ人に。

特集01 地方創生支援の取り組み

特集02 看護のチカラで地域医療を支える！

ラボ★アクション！

キャンパスフレンズ・JAM!!

KENDAI NEWS

ケンダイ広報局

卒業生のフタシ★アクション！

65
2015
Autumn

※都合により本ページは公開していません。



学生たちと一緒に取り組んだ研究の成果をまとめた資料。

ラボ★アクション!

先生たちの 研究の流儀

地域のシンクタンクであり、多彩な学部を擁する岩手県立大学には、個性豊かな先生がたくさんいる。彼・彼女らがどんな想いを抱き、日々どんな研究に取り組んでいるのか。その横顔に迫ってみたい。



ラットを使い、食べ物が生活習慣病の予防に効果があるのかを検証。

**食物と健康の関わりを
栄養学という切り口で
もっと探究していきたい**

山梨県で生まれ育ち「放課後に外で遊び回っているような、普通の田舎の子もだった」という川崎先生。実家は桃や柿を栽培する果樹農家。その影響もあり、当時先進の研究分野として注目を集めていた「バイオテクノロジー」を学びたいと、東京農工大学農学部農芸化学科に進学した。

食品学、発酵学など幅広い専門の中から川崎先生が選んだのは、食べた物が身体に及ぼす影響を探究する栄養学。

「ある授業で、動物性と植物性のタンパク質をそれぞれ違うラットに与える実験をしたとき、動物性のタンパク質を食べたラットのほうがより大きく成長するという結果が出たんです。食べ物って身体をつくる大事な要素なんだな、と実感したのがきっかけでした。」

卒業論文では「がんによる生体への悪影響を抑える食事」をテーマに取り組み、「もっと研究を深めたい」と大学院に進学。「未知のものを発見する、という研究の楽しさ」を日々実感するうち、研究者としての道を目指すようになったという。

博士課程を修了後、群馬県の短大で講師を務め、2000年に岩手県立大学盛岡短期大学部に赴任。学生たちの印象を「おとなしいけれど、とても素直。ものごとを吸収する力があるなと感じます」と評価する。

担当科目は基礎栄養学や生化学。自分で答えを見つけて楽しさを体感させる「授業

「最近の授業や学生たちの研究指導が中心で「自分の研究をする時間がなかなか取れない」と苦笑しつつも、「機会があれば、地域でつくられている食物を試料とした研究をさらに手がけてみたい」と話す川崎先生。

「食物が持つ健康効果への関心が高い今、地域の特産を栄養学的に検証することで付加価値を生み出せるのではと考えています。栄養学という切り口で、地域への貢献ができたらうれしいですね。」

DATA 川崎 雅志 准教授

山梨県櫛形町(現・南アルプス市)出身。1991年に東京農工大学農学部農芸化学科を卒業後、同大学院農学研究科に進み、1996年に博士(農学)を取得。群馬県の短大を経て2000年に岩手県立大学盛岡短期大学部に着任。「基礎栄養学」「生化学」などの授業を受け持つとともに、2009年からは岩手県立宮古高等看護学院の非常勤講師も務める。趣味は料理と美術鑑賞。特に好きな画家はジャン=フランソワ・ミレー。最近は岩手の地酒にも興味あり。



帰るたびに変わって行く
故郷の風景を見届けたい



STUDENTS Voice

自分のやりたいことや好きなことを見つけ、その実現に向かって頑張っている学生たちがいる。彼らが何を思い、どんな行動を起こしているのか。一人ひとりの「ワタシアクション!」をご紹介します。

地元・大船渡での慰問活動の様子。
「受験勉強や入学前後の慌ただしさであまり活動できなかった分、これからはどんどんやっていきたい」と意気込む。

踊りの師範である祖父の影響と地元の祭りに参加したことをきっかけに、新舞踊(日本舞踊一種)を習い始めたのは4歳の時。みんなが喜んでくれることがうれしくて、小学校3年生から慰問活動を自主的に行うようになりました。

中学校2年生の時に東日本大震災が発生し、自宅も被災。衣装や道具も失い、一時は踊りをやめようとも考えました。けれど地域の人たちから「踊りで元気づけてほしい」と声をかけられ「自分の踊りが誰かの励みになるんだ」と気づいて再開を決意。仮設住宅への慰問や、住民間の交流を目的とした踊りのワークショップを始めました。

こうした活動をする中で、復興やまちづくりのため奮闘している人に出会い、刺激を受けるうち、いつしか「大船渡の魅力を発信し、産業を盛り上げたい」という気持ちが膨らみました。そのため必要な経営的知識や考え方を身につけたいと、経営情報学科のある宮古短期大学部に進学。まだ学び始めたばかりですが、経営には戦略や心理など多角的な視点が必要なることを知り、奥深さとおもしろさを感じているそうです。

今月に数回は大船渡に帰省。再建中の実家の手伝いのほか、慰問活動も続けています。バスや鉄道を乗り継いで帰るのは大変ですが、変わっていく故郷を見届けたい気持ちがあります。将来の夢は「踊りを極めて自分の流派を立ち上げる」こと。そして「大学での学びを生かし、地域に役立つ人になる」こと。どちらも実現するために、両立できるように日々励んでいます。

ワタシ★アクション!

宮古短期大学部 経営情報学科 1年

尾崎 勇款 Sasuke Ozaki

1996年生、大船渡市出身。大船渡高校を卒業後、2015年に岩手県立大学宮古短期大学部に入学。4歳から続けている踊りで、大船渡市を中心に慰問活動を行っている。進学に伴い初めての一人暮らしを開始。部屋での過ごし方は「主に踊りの練習」だそうだが、テレビドラマも大好きで、ジャンルを問わず一通りチェックしているとのこと。



...See You
Next
Action!

30年後も発展し続ける地域を目指し 市町村の未来づくりを支援する!

昨年12月、「まち・ひと・しごと創生法」が制定され、全国の自治体で人口の急速な減少を食い止め、地域の持続的な発展を目指す「人口ビジョン」と「総合戦略」の策定が進んでいる。これを受けて岩手県立大学では、地域政策研究センターに「地方創生支援チーム」を設置。県内自治体の支援を行う取り組みをスタートした。



人口9869人の軽米町は、第一次産業を中心とした自然豊かな町。すぐ近くに軽米インターがあり、八戸市もほど近い。



「軽米町総合戦略策定委員会」の様子。産業、教育、金融、労働、マスコミなど、様々な分野の委員で構成されている。



副委員長として発言する千葉実特任准教授。委員会では各委員から様々な意見が出された。



「軽米町人口ビジョン・総合戦略」をまとめた骨子案。軽米町の未来を指し示すアイデアが詰まっている。



「軽米町総合戦略策定委員会」のメンバー・田中祐典さんに酪農の話ヒアリング。町の声を拾いながら実状に合った戦略を考えていく。

軽米町のパートナーとして、 「人口ビジョン」と「総合戦略」づくりを支援

このままでは896の市町村が消滅するかもしれない。昨年8月、『地方消滅』という言葉と同名の書籍が日本を震撼させた。これは、前岩手県知事の増田寛也氏が、国立社会保障・人口問題研究所(以下、社人研)のデータをもとに全国市町村の将来を予測した、世にいう「増田レポート」である。

この報告を読んで全国各地の自治体が大きな危機感を抱いたが、岩手県北部に位置する軽米町も例外ではない。昭和35年に1万7672人だった人口は、この年を境に減少傾向となり、現在の人口は9869人(平成27年3月末現在)に。社人研の推計によると、今から25年後の平成52年には、5400人〜6000人程度まで減少すると見込まれている。このような中、昨年12月に制定された法律に基づく「人口ビジョン」と「総合戦略」の策定は、軽米町にとって今後のまちづくりを見つめ直す絶好の機会。まちの未来を共に考えるパートナーとして、岩手県立大学とタッグを組んだ。

「まちのビジョンを決めるのは、市町村。我々はアドバイザーとして、市町村の意向に沿った戦略づくりを支援する役割です」と話すのは、軽米町を担当する県立大学「地方創生支援チーム」の千葉実特任准教授。関連情報の提供から事務局案の作成支援に至るまで、総合的に町をサポートしている。

地元にはない第三者の視点で、 町の戦略を詰めていく

「草刈り合コンとかユニークなコンパをやって、若者の交流を広げてはどうか」「食とエネルギーを自給できるのは強み。そこを伸ばせないか」。去る7月31日、今後の戦略について町民を中心とした委員から様々な意見が飛び出した。「軽米町総合戦略策定委員会」でのひとコマである。

軽米町は「人口ビジョン」と「総合戦略」の策定にあたり、町民を委員会のメンバーに加え、20歳以上の町民と高校生、在京者を対象としたアンケートを実施。これらの意見も参考にしながら、戦略案の作成を進めている。その一方で千葉実特任准教授は、町が作成した案へのアドバイス、庁内幹部職員との意見交換、委員会への参加を重ね、戦略案の完成をサポートしている。

「自治体ができることと分野も平等に取り扱った総花的なものになることが多いのですが、これは計画ではなく戦略。より具体的に実現可能なものになれば意味があります」と、千葉実特任准教授は話す。ターゲットをどこに絞り込むのか、目標値は実現できるのか。町側が詰め切れない点を指摘し、補足するのが千葉実特任准教授の役割だ。今回の戦略案の策定をきっかけに県立大学は市町村との連携をさらに深め、様々な地域課題の解決に取り組んでいくことが期待されている。



7月31日に軽米町で行われた「第2回軽米町総合戦略策定委員会」。委員として参加した町民や総合戦略の策定に携わる行政職員に、軽米町の未来に対する思いや県立大学のサポートへの感想などを聞いた。

教授から



地方創生支援チーム
千葉 実 特任准教授

改めて地元の良さを見つめ直し、確実に実現できる戦略の立案を

私は軽米町を含め4市町を担当していますが、「思い」だけではなく、合理性や客観性、信憑性の高いビジョンと確実に実現できる戦略を考えることが必要と考えています。軽米町は、町長を始め、みなさんが危機感を強く抱いています。人口減少対策にも以前から一生懸命に取り組んでいますので、より実効性が上がるような「やり方」を検討し、具体的なロードマップを作ることが重要ではないかと思えます。移住は人生において大きな決断。よほどのことがない限り移住しないという前提に立ち、他の自治体にはないメリットを打ち出せるかがポイント。雇用を生むために新しいものを作ったり、企業誘致を考えがちですが、例えばこれまで生き残ってきた地元の産業に目を向けてみるなど、自分たちの原点に立ち返ることに、大きなヒントがあるように思います。

住民から

若者の力と 新たな考えを引き出し、 若者が動きやすい 環境づくりが大事



姫ヶ森牧場・
ひめがもりチーズ工房
田中 祐典さん

酪農家の2代目として、50頭の乳牛の世話をしながら牛乳の直接販売やチーズ・ヨーグルトの製造・販売を行っています。かつては酪農家だけでも50軒以上あったのですが、高齢化と後継者不足によって今は6軒ほどに減少。幸いうちの場合は息子が継いでくれますが、酪農も畜産も厳しい状況にあります。町全体を見ても少子高齢化が進んでおり、人口減少は自然の流れ。その中で力を入れていくべきは、担い手となる若者たちの自主性を引き出し、若者が意見を言いやすい、動きやすい環境をつくること。年配の人にはない新しい視点こそ、今の町に必要です。思い切った新しい戦略を打ち出すためにも、委員会のメンバーにも若者を入れるべきだと思いますね。県立大学の学生さんにも軽米町に来てもらい、この町にしかない良さを引き出してほしいです。

担当職員から

住民と危機感を 共有することで、 協働参画による 地域づくりを目指す

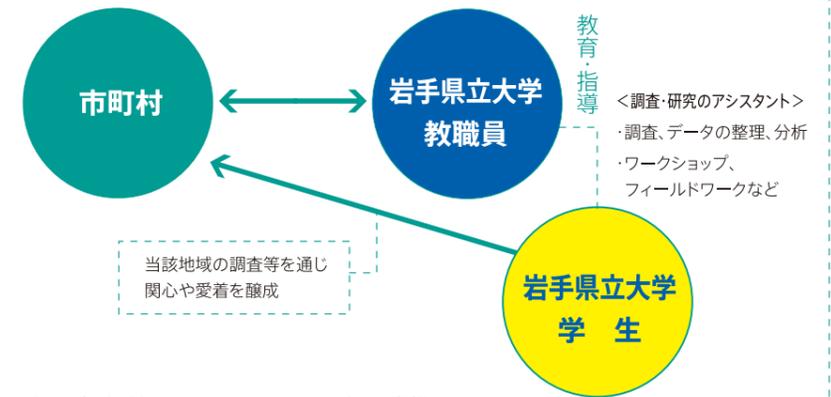


総務課・企画グループ長
畑中 幸夫さん

これまで県立大学と連携したことはなかったのですが、「人口ビジョン」と「総合戦略」の策定にあたり、地域の実状を一番理解していただけたと考え県立大学にパートナーをお願いしました。確かに軽米町は人口減少が進んでいますが、大切なのは人口数の問題ではなく、住民と危機感を共有することだと思っています。危機感があれば、一人ひとりがどうすべきかを考えるし、思いのたけをどんどんぶつけてくれる。総合戦略の策定は、協働参画を促す良いきっかけになったのではないのでしょうか。今回、県立大学の千葉先生に入らせていただくことで、第三者の視点からアドバイスをもらい、自分たちの気づかない点を指摘してもらいました。できれば学生さんにも参加してもらって、若者の意見もほしかった。引き続きお付き合いを続けながら、そういう機会もつっていききたいですね。

【市町村サポートのイメージ図】

- 担当の教職員を窓口として、研究者・専門家の知見を提供
- 学生が関わることでその地域への関心が高まり、就職への発展も期待



- 県立大学ならではの県との強い連携



県内の各市町村で「人口ビジョン・総合戦略」の策定に向けた話し合いが進んでいる。



6月3日の「岩手県立大学地方創生支援スタート研修会」には、28の自治体から担当者が参加。関心の高さがうかがわれた。



滝沢市の総合戦略の策定に向けて行われた、市民によるワークショップ。学生もサポーターとして参加。



8月29日に行われた「市民フォーラムたぎざわ」では、学生もパネリストとして登壇し意見を述べた。

シンクタンク機能を強化させ、市町村の意向に沿った支援を

先に挙げた軽米町の事例のように県内各自治体をサポートするために、県立大学では平成27年3月に、地域課題を中心に取り組む地域政策研究センターの中にシンクタンク機能を強化させた「地方創生支援チーム」を設置。ここが窓口となって、各学部の教員と連携しながら市町村の「人口ビジョン」と「総合戦略」の策定を支援している。

具体的なサポート内容としては、市町村の事務局案の作成支援までを行う【サポートA】(12市町村)、検討委員会への出席・発言を行う【サポートB】(11市町村)、情報提供を中心に行う【サポートC】(10市町村)の3段階。内容や程度に違いはあるが、基本は市町村の意向に沿ったサポートに徹すること。地域の未来を描くのはあくまでも市町村であり、大学側は専門家の立場からアドバイスを行うなど、策定案作成のプロセスをきめ細かく支援している。

今回の策定では、自力で行う市町村もあれば、経営コンサルタントなどをパートナーとする市町村も多い。その中で本学の場合は、3つの強みがある。一つ目は、最もニーズにマッチした専門的なサポートを提供できること。市町村と大学をつなぐ全体統括的な研究者を派遣した上で、大学のネットワークを生かして個別の論点ごとに最適な研究者や県職員などを紹介できることだ。

二つ目はサポートの実践の中で学生たちを関与させられること。それぞれの地域にとって若者の視点が得られるだけでなく、学生たちが作業を通じて地域へ愛着を抱き、就職への意識を高めることも期待できる。

そして三つ目は、県との情報共有をベースとした安心感のある対応ができることだ。このような独自の強みを生かしたサポートを行いながら、市町村との連携を強化し、次のステップへとつなげていく予定だ。

県立大学独自のネットワークと、学生たちの関与が大学の強み



Campus Friends

Vol.5
JAM!!

県立大学のサークルや同好会、
学生会活動を紹介する「キャンパスフレンズ」。
生き生きと活動する学生たちの様子をチェックしてみよう。

DATA

JAM!!

平成12年に創部した音楽サークルで、現在の部員数は45名(男子15名、女子30名)。ほとんどが吹奏楽部の出身で、軽音楽や吹奏楽のサークルと掛け持ちする学生も多いとか。ジャズやスカを中心とした楽曲をカバーし、学内のイベントを中心に活動中。昨年は滝沢市の祭りにも招かれ、演奏を披露した。



今年の7月に行われた「七夕祭」では浴衣姿で演奏を披露。

自分たちで音楽を作り上げる、その過程も楽しいセッション。

あらかじめ用意したアレンジではなく、ミュージシャンが集まって即興的に演奏することを「ジャムセッション」という。音楽好きな学生たちが立ち上げたサークル「JAM!!」は、この言葉から命名されたもの。目指すのはみんなで集い、好きな音楽を自由にセッションすること。音楽を純粋に楽しむために誕生したが、このサークルだ。

「JAM!!」が得意とするジャンルは、ジャズとスカ。どちらもドラム、ギター、ベース、管楽器からなる編成で、楽曲によってボーカルも組み入れながら演奏する。「うちのサークルは曲ごとにメンバーが代わるため常に新鮮な気持ちでのぞめますし、その中で演奏をやり上げていくプロセスがおもしろい。ステージで息がピッタリと合った瞬間は最高ですね」と、前部長の遠藤晶(ひかる)さん(ソフトウェア情報学部3年)は言う。

「JAM!!」が演奏するのは、新入生歓迎会、七夕祭、大学祭、夢灯りといった学内イベントが中心。メインとなる大学祭では、ステージで演奏するほか、音楽を聞きながらお茶やケーキが楽しめる「ジャムカフェ」も開いているという。

「高校の部活と違って、活動の軸は自分にあります。自主的に集まり、一人ひとりが責任を持ってパートを引き受け、自分たちの演奏をやり遂げる。そこが一番の楽しさであり、大学で音楽をやる意義だと思います」と話すのは、現部長の松倉瞳さん(看護学部2年)。誰から強制されるのではなく、自分たちがやりたい音楽を求め、自分たちの表現を作り上げていく。自ら生み出すことの喜びが、ひとときわステージの演奏を輝かせるのかもしれない。

看護のチカラで 地域医療を支える!

看護職の求人が多く寄せられる今の時代、学生たちは様々な選択肢を持っている。このような中で自分の将来をどう考え、どのような道を選んでいくのか。学生の進路選択に寄り添う、看護学部のキャリア教育をご紹介します。



県立久慈病院の看護科で皮膚・排泄ケアの認定看護師として働く、卒業生の十文字晴美さん。



県内の病院の看護部長を招いて開催された、キャリアセミナーの様子。職業観や人生観なども語られた。



盛岡つなぎ温泉病院・副院長兼看護部長の山名泰子さん(左から2人目)は、「誰もが素晴らしい可能性を持っている。あきらめないことが大事」とアドバイス。



保健師・養護教諭・助産師として活躍する卒業生が講演したキャリアセミナー。

県立病院の認定看護師として 地域医療の向上に取り組む。

現在、県立久慈病院で働く十文字晴美さんが、進路を考え始めたのは、看護学部4年の春。首都圏と県内との狭間で揺れている時に、父親からこんなことを言われたという。「お前が支えようと思っている患者さんは、東京と岩手でどこが違うのか？ そう言われて反論する理由がないことに気づいたんです」。

県内就職に方向性を定めた十文字さんは、岩手県医療局に入局。「県立病院なら地域ごとに様々な規模の病院や専門分野が経験でき、多くのことを勉強できる」と考えたからだ。しかし、実際には転勤する機会がなかった。十文字さんは、さらに専門知識とスキルを高めるため、「認定看護師」にチャレンジ。6ヶ月間の厳しい勉強と試験を経て、皮膚・排泄ケアの認定看護師となった。現在は、病

院内外で勉強会や研修会を開きながら、地域全体のレベルの底上げに努めている。「大切なのは、患者さんがハッピーでいられるために、自分に何ができるかということ。どこで働くかは問題ではなく、すべては自分次第です。看護師は一生勉強という十文字さんは、大学院での勉強も視野に入れ、もっと深く専門知識を掘り下げたいと考えている。

県内医療機関への訪問を始め、 進路につながる機会と場を作る。

看護師不足の今、大学に来る求人は多く、資格を生かせる職業も様々だ。その中で理想を実現するために、何を選択するのか。学生たちが早い段階から職業観を養い、具体的なキャリアプランを描くことは、進路選択はもとより、学びの姿勢にも関わってくる。そこで看護学部では、学生のキャリア形

成につながる様々な取り組みを行っている。

具体的には、1年次からの専門科目授業での職業観の醸成を基本に、3年次にはキャリアガイダンスを実施し、進路の選び方を学んだり、就職への意識を高める機会を設定。またクラス担任やゼミの指導教員が、随時、進路相談に対応する環境を整えている。

さらに看護学部では「県内就職対策委員会」が県内の病院を訪問して病院の特徴・ニーズを把握し、県内の病院を学生たちに紹介、つなぐ役割を担っている。また、学生・就職委員会と共催で全学年を対象として、県内の病院の看護部長や保健師・助産師・養護教諭などを招き、様々な経験や職業観などを学べるキャリアセミナーも開催している。

将来の働き方を考えることは、生き方を見つけること。目標をしっかりと定め、学生たちがより良い進路を選べるよう、看護学部では万全のサポートを行っている。

[キャリア教育の取り組み]

看護学部では早期から進路選択やキャリアアップについて考えられる機会を設け、計画的なキャリア教育を行っています。

◎学生の進路選択への取り組み

- [1年次] 県内病院施設への訪問体験活動
- [3年次] キャリアガイダンス
- [全学年] キャリアについて考えるセミナー

◎県内医療施設との連携

- ・県内病院への訪問活動
- ・卒業生、在学生の県内就労に対する意識調査
- ・県内の医療施設が求める大学卒業生へのニーズ調査
- ・卒業生の現況調査など

[学生からの声]

キャリアセミナーに参加して、県内の病院で働くメリットや看護師以外の職種の話を知ることができ、いろいろな角度から検討することができました。できれば看護師として県内の病院で働きたいと考えていますが、自分の可能性を広げられる進路を選びたいと思っています。



川村 祥子さん(看護学部3年)

[キャリアセミナー講師から]

学生生活を充実させ多くを学ぶことが、将来の仕事にもつながります。看護の知識や技術は就職後も学べますが、今しかできないこと、今しか出会えない人と交流し、人間力を鍛えることが大切です。

盛岡市立病院看護部長・柳田 美喜子さん(写真左)

進路を考える際に大事なことは、看護師になりたいと思った最初の気持ちに向き合うこと。それは、これから仕事をする上での支えになります。初心を忘れず、看護職に就く意義を大事にしてください。

八角病院看護部長・武蔵 鈴子さん(写真右)





6.11

滝沢・宮古で夏のオープンキャンパス開催!

7月5日に滝沢キャンパスで、7月26日及び8月23日に宮古キャンパスで、オープンキャンパスを行いました。滝沢では約2400名が来場。模擬講義や学部ごとのイベントはもちろ...

これからの観光と防災学習を支援するコンテンツ配信システム

6月11日に宮古市田老で、12日に本学アイーナキャンパスにて、観光・防災学習を支援するナビゲーションシステムの発表会を行いました。このシステムは、学内研究会「岩手の観光で復興を考える研究会」で開発...

TAKIZAWA CAMPUS

7.5



MIYAKO CAMPUS 7.26, 8.23

吉野教授が

「男女共同参画社会づくり功労者内閣総理大臣表彰」受賞

総合政策学部の吉野英岐教授が平成27年度「男女共同参画社会づくり功労者内閣総理大臣表彰」を受賞し、6月24日夕方に首相官邸にて表彰式が行われました。これは多年にわたる男女共同参画社会づくりに向けた気運の醸成等に功績のあった者などを称えて...



6.24

国際交流バスツアーで岩手の夏を満喫!

7月4日に夏季国際交流研修バスツアーを実施しました。これは本学の留学生と日本人学生、教職員を対象に、岩手県の文化や自然の体験と参加者同士の交流を目指して行っているものです。今回は23名が参加...



7.4



8.3

盛岡さんさ踊りで最優秀賞受賞!

岩手を代表する夏祭り「盛岡さんさ踊り」において岩手県立大学さんさ踊りチームが8月3日のパレードに出演し、最優秀賞を受賞しました! 総勢約200名が今年のさんさ踊り実行委員会が掲げたテーマ「魅せるさんさ」の通りに太鼓、笛、踊りが一体となった踊りを披露...

学生生活を体験する保護者対象バスツアーを開催!

高校生の保護者を対象としたキャンパス周辺バスツアーを8月8日に実施しました。主に遠方に住む方向けに本学周辺の生活環境を見て知ってもらうことを目的に、保護者対象入試相談会とあわせて開催したものです。当日は約60名がツアーに参加。滝沢キャンパス周辺の住まい・病院・買物環境などを、実際にそのエリアで生活するキャンパスアテンダントの学生によるガイドと共に巡りました。参加者にも好評で、「参考になった」「今後も実施してほしい」との感想を多くいただきました。



8.8



8.24-9.6

インターンシップを通して自身のキャリアを考えよう!

夏季休暇を利用して、企業で実施するインターンシップに参加する学生が増えています。今年度も県内企業から多数のご協力をいただき、本学の学生約200名(主に四大3年生、短大1年生)が各事業所にて就業体験を行いました。特に昨年度に本学では「全国道の駅連絡会」と協定を結び、今年度初めて実施された道の駅でのインターンシップには3名の学生が参加。岩手県遠野市にある「遠野風の丘」や宮城県大崎市にある「あ・ら・伊達な道の駅」(写真)にて、道の駅を拠点とした観光振興については地域活性化を図ることを目指しました。

10月24日・25日は大学祭! 楽しいイベントいっぱいの滝沢・宮古の両キャンパスへ!

■滝沢キャンパス

テーマ **ひだまり** つど かがやき ひろ であい

意味: 多くの人が出会い、一人ひとりの笑顔が輝き集まる、ひだまりのように暖かい大学祭にしたいという思いが込められています。IPU Festa 2015は実行委員だけでなく、運営にご協力くださる皆さんや来場者の方々がいることで成り立っています。そのような大学祭の運営に携わっていただく皆さんや来場者の方々に感謝を伝えるとともに、笑顔が生まれるような大学祭をつくりまします。また、すべての人の想いを「ひだまり」に込め、笑顔が集まり、出会いが広がっていくような大学祭を目指します。

○主なイベント紹介

一番HOTな奴決定戦/辛いものが強い挑戦者は誰だ!? 優勝者には豪華景品が!! 皆さんが一体となって楽しめること間違いなし! ミニトリックアート展/生首トリックやホロウマスクIPUくんなどを展示します! すべて手作り、皆さんでトリックの謎を体験してみませんか? おいでよ☆おえかきのもり/講堂に描かれる光の軌跡!! 一緒に講堂で光のアートを楽しもう!! メダルをモゴとれ! MOGIMPIC/たくさんある模擬店の中でメダルを手に入れることができるのはどこだ? 皆さんの投票お待ちしています! IPUフリーマーケット/とっておきの掘り出し物が見つかるかもしれません!! ぜひ足をお運びください!

ステージイベント(24日)

日程	時間	イベント名
	9:50 ~ 10:10	オープニングセレモニー1日目
	10:20 ~ 10:45	さんさ踊り実行委員会
	11:00 ~ 11:55	ガンライザーキャラショー・握手会
	12:10 ~ 12:30	社会福祉学部幼保有志
	12:40 ~ 13:10	懺悔・告白大会
	13:10 ~ 13:40	一番HOTな奴決定戦
24日(土)	13:55 ~ 14:25	エレクtoonサークル joyful
	14:35 ~ 15:20	ア・カペラサークル Jelly Beans
	15:35 ~ 16:05	大学生クイズ!
	16:05 ~ 16:35	学部対抗選手権
	16:50 ~ 17:20	ギタークラブ
	17:30 ~ 17:50	D.A.T
	18:00 ~ 19:00	中夜祭

ステージイベント(25日)

日程	時間	イベント名
	9:50 ~ 10:10	オープニングセレモニー2日目
	10:20 ~ 10:50	JAM!!
	11:00 ~ 11:30	SEGMEN Ver1.05
25日(日)	13:00 ~ 14:00	Live! ねごとライブ
	14:50 ~ 15:20	IKB
	15:30 ~ 16:00	軽音楽部
	16:10 ~ 16:40	うたたね日和
	16:50 ~ 17:10	アダルトシスターズ
	17:20 ~ 19:00	グランドフィナーレ

*イベント名等は変更の可能性あります。最新情報→大学祭実行委員会のHPへ

講堂イベント(24日)

日程	時間	企画・団体
24日(土)	10:30 ~ 12:00	(性別)迷子の舞踏会~ありのままを~
	12:30 ~ 13:10	吹奏楽サークル
	14:20 ~ 15:50	みみ自慢 in Fes'15 ~最強イト口王者決定戦~
	17:10 ~ 17:50	劇団ちゃねる

講堂イベント(25日)

日程	時間	企画・団体
25日(日)	11:00 ~ 11:40	劇団ちゃねる
	12:20 ~ 13:00	混声合唱団 Polish
	15:40 ~ 17:10	おいでよ☆おえかきのもり~増幅に浮かぶ光のアート~

■宮古キャンパス

テーマ **「嘩~ハナ~」** ○主なイベント紹介
お化け屋敷
ビンゴ大会
仮装大会 他
時間: 両日も10:30~15:30



*写真は昨年度の大学祭(滝沢)の様子

同時開催

OPEN CAMPUS in IPU Festa 2015

今年も大学祭とオープンキャンパスがコラボレート! 大学祭を楽しみながら、県大での学び・生活への理解を深めよう!!

■オープンキャンパスイベント(10:00~17:00) 大学紹介・入試相談や学部を身近に感じる体験・紹介イベント、在学生の「キャンパス・アテンダント(CA)」による相談、キャンパスツアーも。そのほか、県大の魅力伝えるイベントが満載。迫力の大画面「ドライビングシミュレータ」などを体験できるi-MOS施設公開もお見逃しなく!

詳しくは <http://www.iwate-pu.ac.jp/>



This is My Action!

OB&OG Voice

大学で学んだことを自分の糧としながら、様々な分野で活躍する県立大学の卒業生たち。それぞれの職場や地域で頑張っている卒業生の「ワタシアクション!」をご紹介します。

編集後記

特集2の取材でふたつのキャリアセミナーの講演と久慈病院の十文字さんからお話を聞きました。誇りと想いをもち仕事に取り組まれる看護職の方々の話を聞くことは学生たちにとって大きな刺激になることと思いました。(企画室・三輪陽子)

■訂正のお知らせ

前号64号について、下記の通り訂正いたします。
[P03 本文3段2行目]
(誤)「現代農業再生論」→(正)「現代農村社会論」

IPU公式アカウントについて

岩手県立大学では、お知らせやイベント情報などについて、よりリアルタイムに発信をするためTwitter公式アカウント[@IPU_official]で情報提供を行っています。さらに、インターネット上での情報発信力をより一層強化するために、Facebook、YouTube等の活用も行っていきます。是非、Twitterアカウントの「フォロー」、Facebookページの「いいね!」によりコンテンツをご覧ください。



〒020-0693 岩手県滝沢市菓子152-52 TEL.019-694-2000 FAX.019-694-2001
[URL]http://www.iwate-pu.ac.jp/ [e-mail]management@ml.iwate-pu.ac.jp

[看護学部] [社会福祉学部] [ソフトウェア情報学部] [総合政策学部] [盛岡短期大学部] [宮古短期大学部]

岩手県立大学の魅力を発信すべく日々活動する学生団体、キャンパスアテンダント(CA)。そんなCAたちがお送りする、県大生の県大生による県大生の今を伝えるためのコーナーです。 (*´▽`*)

ケンダイ広報局

学生★企画



持ち検ちゃんねる

「持ち物検査」略して「持ち検」(笑)!!
今回は男女一人ずつのカバンをCHECK!! (+、(´▽`)っ+。

(´▽`)ノ
かわいいカバンに女の子らしいこだわりある小物がいっぱい、
しっかりPCとポケットWi-Fiが入っていました。
やはり、ソフティーンといったらここでしょうか…。



ソフトウェア情報学部3年
まぎてい



①充電器 / コレがないといざという時に大変なんです。②iPhone / 課題をやる時にがあると集中できます。③化粧ポーチ / 必須アイテム、沢山入っているので、すぐに化粧直してきます。④モバイルWi-Fiルーター (ポケットWi-Fi) / これがあると、ほとんどの場所でインターネットが使えます。Wi-Fi環境がないところで使えます。あとと便利です。

Must Item!



パソコン
Macです。重いです。主に課題をやりたいときに使います。



さんさ浴衣、ばち
さんさ祭り実行委員なので、浴衣のばちは手放せません!!

①お泊まり道具 (電動歯ブラシ、コンタクト洗浄器、赤本ハイパー) / 実験や課題がた〜くさん!そんなときは、学校に泊まって朝まで頑張ります!どんなに忙しくても、歯磨きとお肌のお手入れは大事ですね(笑)②携帯枕 / 枕しくても睡眠はとっても大切ですね!!先輩から受け継いだコンパウトにまとまる枕で、いつでもどこでも安眠です!③本 / 必ず1冊は持ち歩きます。素敵な1冊に出会えると嬉しいですね。今読んでいるのは佐藤泰志「そのみにて光輝く」です。④USB / 沢山のデータが詰まったこれは、大学生の必需品です!みんな持ち歩くので、一目で自分の分かるようにまりもこりのキーホルダーを付けています!!

Must Item!



社会福祉学部3年
ゆっけ

(^^) /
収納力パツグンの大きいリュック!!
何でも出てくる彼のバッグはまるで大学生の四次元ポケット★
バッグの中身から、大学生活が充実している様子が伺えますね。

CAST

ここでは、このページを担当しているメンバーを毎号紹介していきます。(´▽`)



A1:浅草で見つけたキ
→ ティちゃんの扇子→残暑の時期にも大活躍のアイテム☆ゆるキ
→ ティちゃんのキーホルダーが可愛い
A2:大人の塗り絵
A3:複雑な都会の路線

社会福祉学部4年
みほちゃん



A1:電子辞書
→ 英語の課題、レポートに取り組み際大活躍しています!
A2:ドライブ
A3:虫

盛岡短期大学部2年
ほのちゃん



A1:F1雑誌
→ 暇なときに読もうと持ち歩いています。ちなみにこちらは、大好きなキミ・ライコンンさんです。
A2:白ごまだれ団子
A3:花粉

ソフトウェア情報学部4年
わかねぎ

Q1→こだわりアイテム Q2→好きな物 Q3→嫌いな物